

I テーマ設定の理由

最近の若い人は方言を話さないで、方言は忘れ去られつつあると聞いた。そこで私は、少しでも昔ながらの地方色豊かな言葉を知りたいと思った。それと、各地のアクセントについても調べてみることにした。これは、テレビ・ラジオが普及する中で、アクセントはあいまいになっていないだろうか、と思ったからだ。この二つのことを、主にアンケートで調べることにした。

II 研究方法

- 1) アクセント、方言について本で調べる。
- 2) どの言葉を選べばよいか考え、アンケートを作る。
- 3) アンケートを全国の都道府県立図書館に送る。
- 4) アンケートをもとにまとめる。

III 研究内容

[1] アクセントの分布図

- 東京式アクセント
- 準東京式アクセント
- ▲ 京阪式アクセント
- ▶ 準京阪式アクセント
- その他のアクセント
- ★ 無型アクセント



全国のアクセント分布は図1のようになっている。

主なアクセントには東京式・京阪式・無型がある。東京式アクセントは関東地方・中部地方を中心に北は北海道や東北地方・南は中国地方・北九州と広い範囲で用いられている。京阪式アクセントは京都・大阪・神戸を中心として高知・徳島や若狭など四国や北陸の一部でも用いられている。このアクセントは東京式アクセントに対立する代表的アクセントである。また、仙台・山形・福島・水戸・宇都宮・福井・延岡・都城ではアクセント型の区別のない、無型アクセントと呼ばれるものが用いられている。

京阪式アクセントが北陸でも使われている、というのが意外だった。地域によってアクセントも大きく違うようだ。

[2] アンケートからわかったこと

<アンケートの内容>

- ① 「イヌが」「頭が」など違いがわかりそうな言葉を27個選んで、アクセントを書いてもらう。また、その言葉を方言で言うとうなるかも書いてもらう。
- ② 残しておきたいお国ことばとその説明を書いてもらう。

<アンケート結果>

滋賀県を除く都道府県から返答が来た。12都府県からは本の紹介をしてくれて、その他ほとんどはアンケートに答えてくれた。②には本のコピーや雑誌のコピーをたくさん送ってくれた。まず、①で方言を書いてもらったうち、特におもしろかったものを下の表にした。

	葉が枯れる	金が余る	牛が歩く	花が赤い	湯が熱い
青森	ハッコがカレル	ジェンコが アマル	ベゴコが アサグ	ハナがアゲエ	ユッコア アツ
秋田	ハツバカレル ハコカレル	カネアマル ジェンコノゴル	ベゴアルグ ベゴアルイグ	ハナアギヤ ハナがアギヤ (ハナコ)	ユッコ アツイ ユアツイ
宮城	ハがカレル	カネがアマル	ウスがアルブ	ハナがアツケ	ユがアツイ
栃木	ハツバが ブツカレル		ウンボが アラシ	ハナがアケー	湯→リ・オイ 熱い→アツチ
群馬	ハツバがカレル	ゼネがアマル		ハナがアケエ	ユがアツチイ
石川	バツバが	ゼンがアマル			ユアツイ
島根	ハがカレー	カネがアマー	オスが	赤い→アカエ	イがアツ
岡山				ハナがアケエ	ユがアチー
徳島	葉→ハー		牛→ウモー ウシンモー		熱い→イタイ ドアツイ
佐賀		カネが アマトル	ウシが アルキオル	ハナノ アツカヨ	ユノアツカヨ
大分	ハーがカレル	ゼニがアマル		ハナがアケエ	ユがアチイ
熊本	ハノカルル	カネアマル カネノアマル	ウシノアルク	ハナンアカカ ハナンアツカ	ユノアツカ ユンアツカ
長崎				ハナノアツカ	ユノアツカ
沖縄	ファース カリユン	ジンヌ アマユン	ウシヌ アツチュン	ハナヌ アカサン	ユース アチサン

次のページの図2は①でアクセントを書いてもらったものである。○や●の位置は音の高低を示し、●は強く発音する音である。アクセント表をつくってみて、多少の例外を除くと分布図どおりになっていることがわかった。特に「橋が」と「箸が」の部分が東京式アクセントと京阪式アクセントではっきりと分かれた。東京式アクセントでは「箸が」を<sup>○</sup>o-oと言うが、京阪式アクセントでは「橋が」を<sup>○</sup>o-oのように言うので、まぎらわしい。「雲が」と「クモが」、「雨が」と「飴が」は考えていたようにきれいに分かれなかったが、これからも違いがわかると思う。このほか、どの言葉を見ても東京式と京阪式では同じアクセントのものがない。だから、東京の人にとっては大阪のアクセントは変に聞こえるだろう。

アクセント表を全体的に見て気が付いたことは、アクセントのない言葉が多いということだ。つまりo-o-oのように書かれているもののことである。本来なら無アクセントの地域だけにあるはずなのだが、逆に無アクセントの地域ではアクセントのあるものが多い。特に動詞・形容詞はそうになっている。答えてもらう人の年齢や環境によってアクセントは違ってくるので、このアンケートは正確とは言い切れない。だが、これが本当とすれば、地方のアクセントはテレビ・ラジオの普及であいまいになってきていると言えるのではないかと思う。

②で残しておきたいお国ことばを書いてもらったものはあまりにも多いので書けなかったが、本当に親切にたくさんの資料を送っていただいた。だがその中には、今はほとんど使われていない、お年寄りの間で使われている、と書いてあったものもあり、若い人は使っていないらしい。表現力の豊かな方言がなくなり、共通語だけの世界になってしまうのは非常に寂しく、残念なことである。しかし、感心させられたものもあった。徳島県が送ってくれた雑誌「あわわ」の「阿波弁講座」はマンガ入りで、阿波弁を何も知らない私でも楽しく読めた。こういうように、方言を若者に知ってもらう努力をしている地域もあるようだ。送ってもらった資料のほとんどが古い本のコピーだったので、この雑誌はとても新鮮な感じがした。全国にも、もっと方言を大切にしたい。次の世代にも残そう、という運動が高まることを期待したい。その他、いろいろと資料を送ってくれた図書館の人に厚く御礼を申し上げます。



#### IV まとめ

##### ① アクセントについて

東京式と京阪式のアクセントは全然違うということがはっきりと感じられた。しかし、秋田県・宮城県・新潟県・鳥根県・岡山県・長崎県といったところでは本来アクセントがあるはずなのに、ほとんど音の変化がないようだ。アクセントがあいまいになってきていると考えていいのではないか。

##### ② 方言について

同じ言葉でも実に様々な言い方があり、とても楽しかった。その地方の特色が表れているようで、貴重な資料になったと思う。こんなに表現力が豊かな方言を、古くさいとかの理由で忘れてしまってもいいのだろうか。方言をむやみに大切にすることもいけないだろうが、共通語に代えてしまうと何だか方言の持つ温かさがなくなってしまうような気がする。もっと方言に誇りを持ち、責任を持って方言を次の世代に伝えるべきだと思う。

方言に親しみを感ずるのは、方言の味や表現力の豊かさに底知れぬ魅力があるからであろう。今回の研究でそういうことはわかったが、やはり実際に行って自分の耳で聞くことが一番だと思う。また機会があれば、実はまだ読み切れていないこの資料をじっくりと読んで、実際に方言を聞きに行きたいものだ。

#### V 反省・感想

アンケートを作った時は、まだあまり知識がなかったから仕方がないが、今考えるとこのようにしておけばよかった、ということがいくつかあった。だが図書館の人が非常に親切に回答してくれたおかげで、どうにかここまで研究を進めることができた。感謝したい。

#### VI 参考文献

「日本の方言」平山輝男著・「方言概説」・「方言解説ハンドブック」・「新しい方言研究」・「全国アクセント辞典」平山輝男著・NHK「日本の方言」（カセット）・「方言地理学図集」徳川宗賢・W・A・グローターズ編



「あわわ」  
月刊タウン  
マガジン  
「阿波弁  
講座」  
1986. 3月号

「あわわ」  
月刊タウン  
マガジン  
「阿波弁  
講座」  
1986. 3月号